

「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクト

提案者：沖縄県恩納村



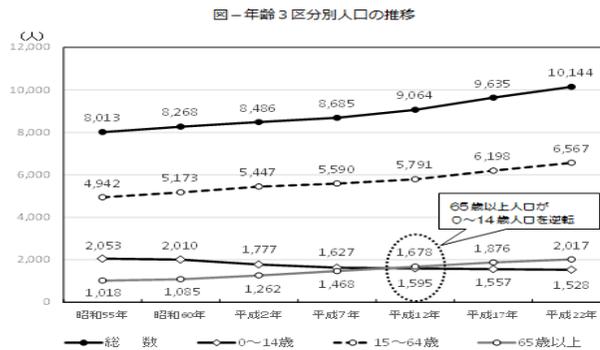
恩納村は豊かな自然に恵まれ、リゾート地として発展してきた



(1) 環境・地理的条件

恩納村は、県都那覇市より北に約50km、沖縄本島のほぼ中央部の西海岸側に位置し、東西約4.2km、南北約27.4kmで、西側は全域海岸となっており、海岸に沿って国道が整備され、また東側は南北にわたり丘陵地（山林）で豊かな自然に恵まれている。

本村の最大の特徴はサンゴ礁海域をはじめとする恵まれた自然環境であり、この自然環境のあり方が本村の衰退に関わるといえる。



(2) 社会・人口

恩納村の人口は、リゾート施設周辺の飲食店や関連業の立地に伴う雇用機会の増加等の影響もあり増加傾向である（2015年10,652人（対2010年比5%増））。また、沖縄科学技術大学院大学やリゾートホテルの増加により外国人も増加している（2015年516人（対2010年比411%増））。

(3) 経済・産業

風光明媚な自然環境に恵まれ、穏やかな暮らしぶりとともに観光リゾート地として成長し、海岸沿いを中心に、95件の宿泊施設（4,345室）が立地し、年間延べ2,569千人の観光客が宿泊している。それに伴い、産業別就業者数も第3次産業の割合が多くなっている。

また、沖縄科学技術大学院大学（OIST）が開学し、世界57カ国から973人の学生・職員等が従事しており、観光リゾート施設だけでなく、学術機能としてもグローバル化が進んでいる。



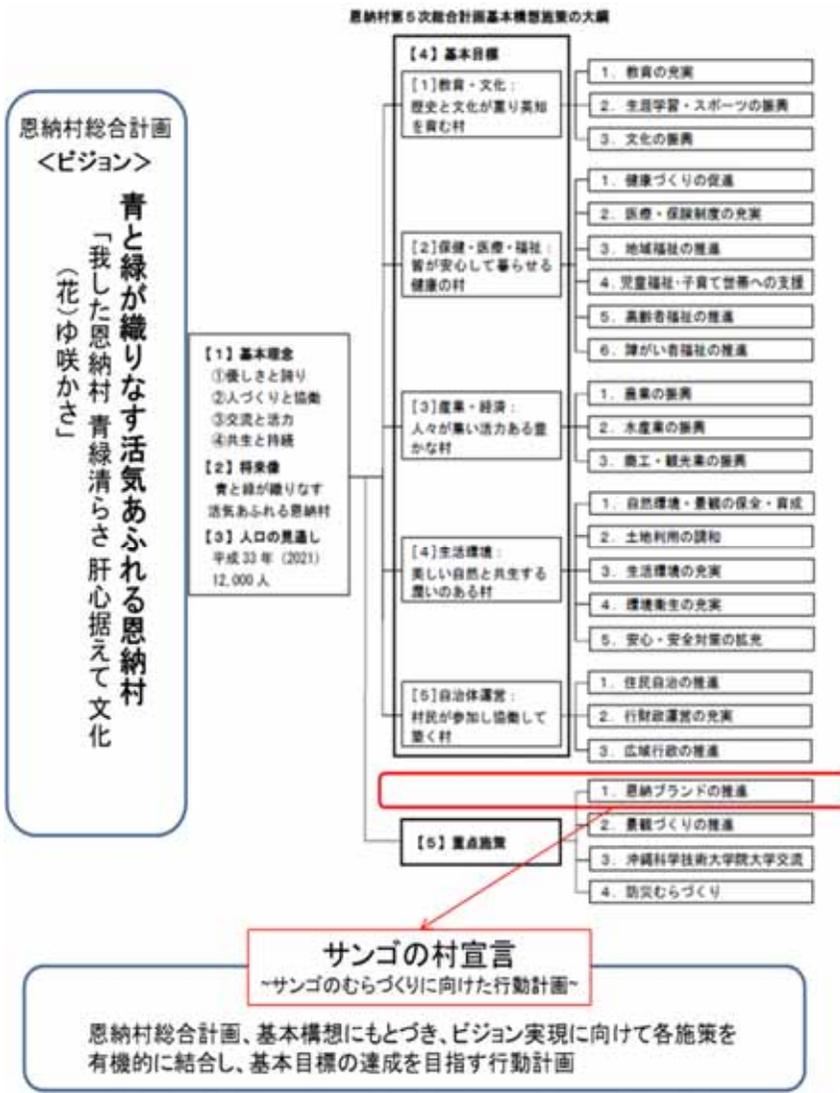
恩納村は村のブランド確立に向け 2018年7月にサンゴの村宣言と行動計画を策定した



恩納村は、村民一人ひとりの自然環境に対する意識の向上を図り、本村の豊かな自然環境の保全と育成を行い、地域資源を活かした恩納ブランドの確立に向け、2018年7月に「サンゴの村」を宣言した。世界一サンゴにやさしい村づくりを目指して、関係団体等と連携し各種プロジェクトに取り組んでいる。

【サンゴのむらづくりに向けた行動計画】

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. やさしさと誇り(普及啓発に関する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージキャラクター作成及び活用事業 ・サンゴの村フェスタ ・環境関連データのモニタリング調査の実施 ・世界一を発信する取り組み ・デジタルコンテンツ導入事業 | <p>2. 人づくりと協働(人材育成に関わる事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間でのサンゴに関する学習の実施 ・絵本製作事業 ・サンゴや海辺の生き物に関する学習会の開催 ・サンゴの写真展、パネル展示等の開催 |
| <p>3. 交流と活力(産業振興に関わる事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港施設内における環境美化事業 ・漁港施設利用のルール作り ・コープでの恩納村PR事業 ・サンゴの歌の普及 ・産業振興に関わる人材育成 | <p>4. 共生と持続(環境保全、事業継続に関する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤土等流出防止営農対策促進事業 ・赤土等流出防止活動支援事業 ・エコクーポン事業 ・水産多面的機能発揮対策事業 ・サンゴに優しいライフスタイルの普及啓発 |



本申請にはサンゴの村宣言のビジョンを実装する狙いがある

恩納村総合計画

ビジョン

サンゴのむらづくり計画

1、自治体SDGsの推進に資する取組	ターゲット
<ul style="list-style-type: none"> サンゴを中心とした豊かな自然あふれる社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> サンゴの保護、再生、企業参画の促進、財源確保、普及啓発等 	14. 1
<ul style="list-style-type: none"> 多様なステークホルダーと連携したサステナブルツーリズムの実現 <ul style="list-style-type: none"> 観光活動、域内消費等が環境保全につながる仕組み構築 GreenFins、ローカル認証制度等の導入 持続可能なむらづくり推進税（環境税）の導入 	12. 8
<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の小さい観光スタイルの実現 <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の小さい交通・インフラの整備 自然環境を活かしたツーリズムに資するインフラ整備 ビーチウォークと結節する賑い空間整備等 	11. a
<ul style="list-style-type: none"> 世界一のサステナビリティ研究拠点と連携した開発活動と女性の活躍の推進、格差の解消 <ul style="list-style-type: none"> 村民、将来世代への啓発活動、機会創出 女性の活躍の機会創出 ユニバーサルツーリズムの推進 	4. 7
2、自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）	ターゲット
<ul style="list-style-type: none"> サステナブルツーリズムの実現（経済） <ul style="list-style-type: none"> GreenFinsの導入 恩納村版ローカル認証制度の導入 サステナブルツーリズム実施拠点の整備 	8 11
<ul style="list-style-type: none"> 将来世代の育成と全員参加型社会の実現（社会） <ul style="list-style-type: none"> 世界一のサステナビリティ研究機関（OISTとの協働）の確立 女性の活躍推進事業 ユニバーサルツーリズムの推進 	8 11 14
<ul style="list-style-type: none"> サンゴなど豊かな自然あふれる社会の実現（環境） <ul style="list-style-type: none"> 環境関連データのモニタリング調査の実施 サンゴ保全のための企業協賛事業 環境税（持続可能なむらづくり水推進税）導入 非化石燃料交通機関の整備、再生可能エネルギーを用いたライフスタイルの普及促進 	14
<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティハブ導入事業（三側面をつなぐ統合的取組） <ul style="list-style-type: none"> サンゴの保全活動、GreenFins、等の情報発信 村民、観光客、留学生等の交流拠点及び村民の憩いの場 官、民、学等の連携に資する情報共有拠点 雇用機会を創出するマッチング拠点（観光産業を中心） OIST連携によるサステナビリティ研究及びダイバーシティ推進の拠点 他地域への普及展開等の情報集約・発信拠点 	8. 9. 10. 11. 12. 14. 15. 17

SDGsモデル事業は現状の課題を解決し 2030年に目指す姿へ導く中核事業である

【申請内容俯瞰図】

次ページ以降で詳細に説明

分類	現状課題	現状行っている 解決策	SDGsに資する取組	SDGsモデル事業 (先進取組)	2030年に ありたい姿
環境	サンゴの保全を強化する必要がある	<ul style="list-style-type: none"> 恩納村環境保全条例による土地利用のコントロール 大規模施設への排水の排出規制 赤土等流出防止対策等 恩納村漁業協同組合を中心にオニヒトデの駆除 サンゴの養殖・植え付け等のサンゴ礁保全再生活動に取り組み 	<p>サンゴを中心とした豊かな自然あふれる社会の実現</p> <p>サンゴの保全・再生 サンゴの保全・再生への企業の参画促進 サンゴの保全・再生の継続的実施のための財源の確保 サンゴに優しいライフスタイルの普及啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境関連データのモニタリング調査の実施 Green Finsの導入 サンゴの保全のための企業協賛事業 (仮称)環境税(持続的なむらづくり推進税)導入 非化石燃料交通機関の整備 再生可能エネルギーを用いたライフスタイルの普及推進 	サンゴに優しいライフスタイル実現
社会	<ul style="list-style-type: none"> 平均賃金が低く、高付加価値雇用がない ダイバーシティやバリアフリーが進まない 	<p>村民や将来世代への啓発活動、機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄科学技術大学院大学(OIST)と連携した、自然環境保全の重要性やサステナビリティの普及啓発活動 雇用機会の創出(恩納村合同就職説明会の開催) 	<p>世界一のサステナビリティ研究拠点と連携した啓発活動と女性の活躍推進、格差の解消</p> <p>村民や将来世代への啓発活動、機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄科学技術大学院大学(OIST)と連携した、自然環境保全の重要性やサステナビリティの普及啓発活動 雇用機会の創出(恩納村合同就職説明会の開催) 女性の活躍の機会の創出 女性の自立支援(女性のキャリアアップ応援イベントやダイバーシティに関する取組など) ユニバーサルツーリズムの推進 観光施設のバリアフリー化 マリナクティビティや体験型観光のバリアフリー化 	<ul style="list-style-type: none"> 世界一のサステナビリティ研究機関・沖縄科学技術大学院大学(OIST)による村民や将来世代への啓発活動 女性の活躍推進事業 ユニバーサルツーリズムの推進 	ネイティブが活躍するむら
経済	観光などのブランディングがなされていないことが課題	現状は漁業ならびに観光業を主力として育成	<p>多様なステークホルダーと連携したサステナブルツーリズムの実現</p> <p>観光・消費活動が環境保全に繋がる仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> Green Finsの導入 恩納村版ローカル認証の導入 (仮称)環境税(持続的なむらづくり推進税)の導入 サンゴ礁や観光資源の恩恵を受ける企業に対して協賛を募集 <p>環境負荷の小さい観光スタイルの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の軽減に繋がる交通・インフラの整備 真栄田岬などアクティビティの拠点となる施設整備と環境技術を活用したアクティビティ、サービスの開発、環境教育や啓蒙活動 	<ul style="list-style-type: none"> Green Finsの導入 サステナブルツーリズムの実施拠点の整備 恩納村版ローカル認証の導入 	世界水準のスマート・エコリゾートの実現
統合的取組	—	—	—	サステナビリティ・ハブ導入事業	—

SDGsモデル事業における環境面での取組の詳細

事業	実施内容
環境関連データのモニタリング調査の実施	海や河川等の定期的な水質調査を行い、サンゴ礁保全再生活動のモニタリングを行う。
Green Finsの導入	UNEP（国連環境計画）協会とのパートナーシップ協定を通じ、Green Finsを推進する。それを通して観光客に事前に研修をして、サンゴへのリスクと安全なダイビングの仕方を理解してもらい、自然を傷つけず恩納村のサンゴを体験できる体制を整える。
サンゴの保全のための企業協賛事業	旅行業者や運輸企業、化粧品企業、恩納村を拠点にしている小売企業など、サンゴ礁や観光資源の恩恵を受ける企業体に対して協賛を募集し、環境保全に協力いただくと同時に、事業展開上の支援を行う。
（仮称）環境税（持続的なむらづくり推進税）導入	（仮称）環境税（持続的なむらづくり推進税）による財源確保を行い、今後の観光化に伴って、2020年4月より環境税（持続的なむらづくり推進税）を施行し、環境保全に係るコストを補填する。
非化石燃料交通機関の整備	那覇からの距離により、恩納村へのアクセスは自動車に限られているが、内燃機関型自動車に依存しない未来都市を構想する。
再生可能エネルギーを用いたライフスタイルの普及推進	リゾート施設などで、風力発電などの再生可能エネルギーを支援し、再生可能エネルギーの普及を推進する。

Green Fins



リゾート施設の再生可能エネルギー



SDGsモデル事業における社会面での取組の詳細

事業	実施内容
世界一のサステナビリティ研究機関・沖縄科学技術大学院大学(OIST)による村民や将来世代への啓発活動	沖縄科学技術大学院大学が、民間企業、自治体に行っている、恩納村のサンゴ礁をはじめとした研究内容の啓発を地域の公立学校などでも行い、次世代を担う子どもたちが自分たちの住んでいる世界や世界に関して考え、行動する機会を増やす
女性の活躍推進事業	<p>恩納村では、全員参加型社会を目指して、雇用推進政策やOISTでの女性の活躍支援などに接続する形で、女性の活躍支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な働き方への支援 ・ 仕事と家庭及び地域活動との両立への支援 ・ 女性の活躍推進企業への政策面での優遇 ・ 村役場における女性管理職増加と支援 <p>これらの取組みを通して、地域の女性が活発に活躍できる社会を目指す。</p>
ユニバーサルツーリズムの推進	恩納村では、ダイビング、シュノーケリングなどの体験型観光を推進している。このことは、とすれば障がいの有無や年齢、体力差により体験に参加できる人とできない人に格差をもたらすことになる。本村としては、観光施設のバリアフリー化を一層推進すると共に、障がい者ダイビングの推進など観光客の誰もが取り残されることなく恩納村の自然を享受できるような仕組みを構築していく。

OISTで行われている
「こどもかがく教室2018」



OISTで行われている
女性が輝く未来会議
in 沖縄の様子



SDGsモデル事業における経済面での取組の詳細

事業	実施内容
Green Finsの導入	観光業の高付加価値化に向けた取組みの一環としてUNEP協会が推奨するGreen Finsを適用する。この取組みによって、サンゴの美しさが沖縄から消えることなく、サンゴの再生を通じたダイビングやシュノーケリングの高付加価値化・ブランディングを行い、恩納村の観光業全体の高付加価値化を図る。
サステナブルツーリズムの実施拠点の整備	真栄田岬などの観光スポットで、シュノーケリング・ダイビング・シーカヤックなどのレジャーや多目的ホール、市民たちの憩いの場所となるような複合施設を設置し、恩納村のサステナブルツーリズムの発信拠点としての地位を確立する。取組みによって、観光収益・投資、観光客とその収益が増大し、恩納村の税収が増加する。
恩納村版ローカル認証の導入	域外への恩納村の特産物の販売の主流化を目指してローカル認証を導入する。

ローカル認証とは:

国境を越えないローカルな流通を前提として、他県や他の地方圏の特産品の品質を保証するために各自治体が定めようとしている認証

現状の真栄田岬:

青の洞窟として知名度が高く、観光客が集中し、ピーク期には非常に混雑するスポットとなっている。持続可能な活用の方策等を含め、海洋レジャーの拠点化について調査、検討を行う。

経済圏の分類	説明	流通している品質保証のための認証
グローバル経済	国境を越えて流通が進む経済圏	MSC認証、FSC認証、SEDEX認証など
ローカル経済	国内や地方圏だけで流通する経済圏	ローカル認証 = 国内の他地域の信頼を担保するための認証
地元経済	村内、市内など地元圏内の経済圏	地元同士で信頼があるので不要



三側面をつなぐ統合的取組の概要について

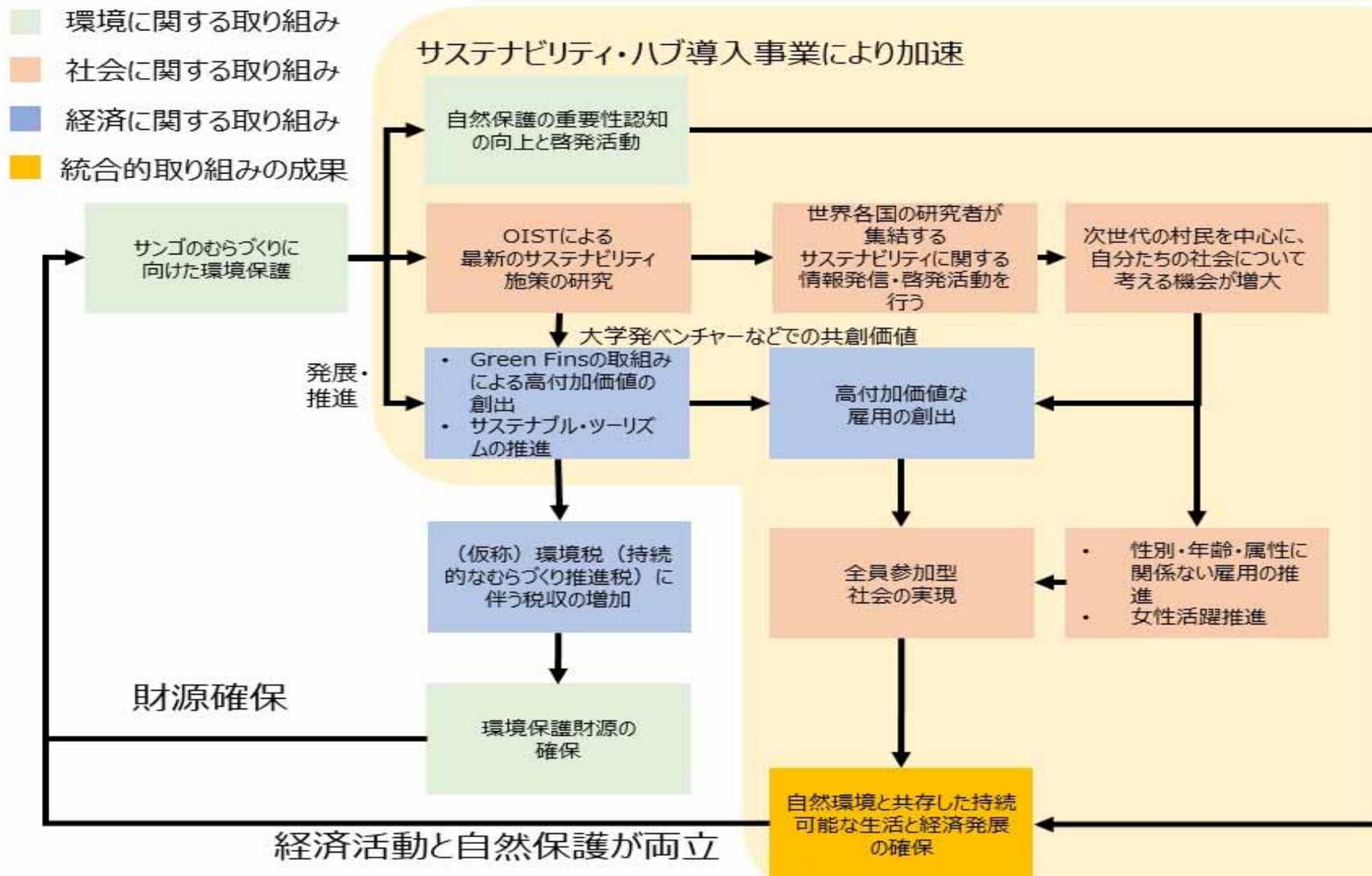
観光客など多くの人が集まるおんなの駅「なかゆくい市場」周辺にGreen Fins観光事務局などを新たに設立し、他機関と連携していく。この連携を通して、おんなの駅「なかゆくい市場」周辺を恩納村のサステナビリティ推進の拠点にしていく。



サステナビリティハブは、下記のような機能を果たし、村内外の研究機関、行政、企業が連携し、相乗効果を生んでいく場にしていきたい。

- サンゴ保全の取組みの発信
- Green Finsなどのサステナブルツーリズムの実施と発信
- 村民と観光客、留学生の交流の場の創出
- 官民学連携の情報拠点・商談の場としての役割
- 観光客や村民向けのマーケティング機能の強化
- 観光業を中心とした雇用の紹介
- 村民の集会などに利用する憩いの場の設定
- OISTなどと連携したサステナビリティの最新の研究やダイバーシティ推進の取組み
- 他地域への展開（外への啓蒙・発信共有の取り組み）
- 環境、社会、経済、各施策が連関するようにスケジュールを策定し、定期的なモニタリング、効果測定など

統合的取組による波及効果（相乗効果）について -個別取組の相乗効果



恩納村2030年像について

- 3つの目標を実現し、自律的好循環を生み出す

1. サンゴに優しいライフスタイル

行政としてサンゴを保全するだけでなく、村民の生活の中に、自然環境の保全を習慣づけるような様々な施策を講じる。エシカル商品の推進、省エネの啓発活動、自然環境について学ぶ等、サンゴに優しいライフスタイルを村民へ普及（環境基本計画を策定）する。

2. 世界水準のスマート・エコリゾート

沖縄科学技術大学院大学（OIST）の最先端の環境分野の研究成果等を活用した、観光リゾート地における先駆的な基盤整備や各種商品・アクティビティ開発、観光PRの強化及び人材育成等の取り組みが進むことにより、リゾートと環境が共生した、サンゴにやさしいライフスタイルが体感できる世界水準のスマート・エコリゾートの確立を目指す。これによって観光客の満足度の向上、持続可能な地域経済の確保による豊かな村民生活が実現している。

3. ネイティブが活躍するむら

観光・リゾート産業や農林漁業に対する環境技術を導入し、地元の人々や産業と連携することで、高質かつ持続可能なサービスが集積したリゾート地を形成する。その結果、一次産業から三次産業まで村民各々の個性に合わせた高付加価値な雇用を生むことができる。「誰ひとり取り残さない」村民全員参加型社会を実現し、住民が自己実現できるだけでなく、格差解消に向けた積極的な打ち手になる。

